

(様式5)

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成25年度 高岡工芸高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	自ら学ぶ学習態度の育成とわかる授業の推進、基礎学力の定着
現 状	各教科の授業において、自ら学習する態度に欠ける生徒がいる。各科目の授業においては、生徒の実態を踏まえながらその指導方法の工夫・改善を進めて分かりやすい授業の推進を図るとともに、生徒の自主的な学習態度の育成と学習意欲の向上を図る必要がある。 ・中学校程度の基礎的な計算力が不足していることから、特に専門教科の授業について内容を十分理解できない生徒が多数いることから、中学校までの基礎的な計算力を確実に身に付けさせる必要がある。 ・各種検定や資格の取得に向けた補習を実施するなどして、生徒の資格取得への積極的な取り組みを促し、自ら学習する態度の育成を図っている。
達成目標	互見授業と授業アンケートの実施 ・年1回以上他の教員の授業を見学する。 ・担当授業の生徒に対して、年1回以上理解度アンケートを実施する。 基礎計算力テストの実施と分析 ・年2回(年度当初、年度末)にテストを実施する。 ・年度末のテストの全ての設問の正答率を70%以上とする。
方 策	・他の教員の授業を見学することにより、自身の授業を改善する。 ・生徒に対する授業アンケートにより、生徒自身に学習態度の振り返りをさせるとともに、指導内容の理解度や意欲を把握する。これによりより分かる授業に改善する。 ・年度当初の基礎計算力テストの結果を踏まえ、正答率の低い問題について関係教科で連携し、対策を講じる。
達成度	・授業見学は教諭57名中50名が実施(実施率87.7%)し、のべ82回実施(1人あたり1.4回)。 ・授業評価は教諭57名中13名が実施(実施率22.8%)し、のべ14回実施(1人あたり0.22回)。 (1月末現在) ・基礎計算力テストは予定を含め2回実施(第1回は5月20日(月)、第2回は3月に実施予定)
具体的な取組状況	・授業見学について、お互いに気楽に見学できる環境作りに取り組んでいる。 ・授業評価は、授業担当者が自ら質問項目を設定して、アンケート形式で実施している。また、アンケートのひな形も提示している。 ・基礎計算力テスト4月の基礎計算力テストの結果を踏まえ、全ての設問で70%以上の正答率をめざし、関係教科で年間計画において重点をおいて指導することとした。
評 価	授業見学 A 授業評価 C ・授業見学については、今年度は、指定研究授業が2度行われたため、多くの先生が他の先生の授業を見学することができた。 ・授業評価については、授業評価アンケート作成の負担増や実施時間の確保など、実施に対して難しい点もあり、実施率は高くない。 C ・設問6題中3題が正答率70%に達しなかった。全体の正答率は61.0%(昨年度は56.7%)であった。学科別の各設問の正答率を踏まえて、関係教科科目で関連する単元等で重点指導をすることとした。 ・第2回の結果を踏まえて、あらためて評価したい。
学校関係者の意見	・「ものづくり学」は、工芸高校の特徴でもあるのでアンケートを実施し、よりよいものにしていく欲しい。
次年度へ向けての課題	○授業については、互見授業等により教科内で連携を図り、情報交換を密にしながら改善を進めていくことが重要である。また、生徒による授業評価もその一つの方策として有効と思われる。授業見学はほとんどの先生が他の先生の授業を見学し、定着しつつある。今後も継続して取り組むとともに、より授業改善につながる方法を検討して実施率の向上を図るよう方法の見直しも必要と考える。 ○基礎計算力テストは、設定を全ての設問で70%以上の正答率を目指すとした。ここ数年の実施データから、毎年正答率の低い問題の傾向がわかってきており、ここを重点的に指導していきたい。また第2回の結果を踏まえて、指導方法とともに、問題の改訂を検討しながら、今後も継続して行う必要がある。 ○新高校として取り組んでいる1学年及び2学年でのものづくり学について、その成果を確認するための「ものづくり学」に関するアンケートを実施する予定である。その結果を踏まえて、ものづくり学の内容の改善を検討したい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

(様式5)

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成25年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -2-			
重点項目	学校生活		
重点課題	安定した生活習慣の形成		
現 状	<p>・昨年度、寝坊や怠惰による遅刻は241回(一人当たり年間 0.29回)で、前年度比ではほぼ横ばいであったが、複数回遅刻している生徒が63人、のべ150回で全体の62%を占めた。遅刻が習慣化している生徒に対してより安定したより良い生活習慣を身につけさせる必要がある。</p> <p>・昨年度、本校生徒に関わる交通事故は15件で、目標の年間5件以下を大きく上回った。ほとんどが自転車の軽微な事故とはいえ重大な事故につながる事が予想されるので、運転時の交通ルールの徹底や危険箇所を提示し、より安全な登下校を促すよう指導する必要がある。</p>		
達成目標	寝坊や怠惰により遅刻する生徒を減らす	登下校時の交通事故の減少	
	・1人当たり年間0.25回以下(のべ200回以下) ・複数回遅刻する生徒の減少(15人以下)	年間5件以下	
方 策	<p>・複数回遅刻した生徒に対し、面接指導や自省活動などを通して、生活習慣の改善を図る。</p> <p>・校門「朝のあいさつ運動」の継続実施</p>	<p>・警察署などから講師を招き、交通安全教室を実施し、安全意識の高揚をはかる。</p> <p>・自転車点検を実施し、整備された自転車で安全に通学するよう指導する。</p> <p>・警察者などから講師を招き、交通安全教室を実施し、意識の高揚を図る。</p> <p>・ポスターなどによる安全意識啓発。</p>	
達成度	延べ遅刻回数 191回(0.24回/年・人) 複数回遅刻者 22人	6件(1/20現在)	
具体的な取組状況	<p>・複数回遅刻した生徒に対し、生活習慣の改善を図るために面接指導や清掃活動など課し反省時間を与え、よりよい生活習慣の大切さを説いた。</p>	<p>・生徒に対し、集会時を利用し事故の事例等を示しながら注意喚起を行った。</p> <p>・自転車シミュレータを用いた交通安全教室を実施した。</p>	
評 価	C 延べ遅刻回数に関しては目標達成、複数回遅刻者に関しては22名と大幅に増加し未達成。	C	自転車通学時の事故は4件、歩行中の事故が2件で合計6件で未達成。
学校関係者の意見	<p>・事故に関して昨年よりかなり少なくなっている。今後も指導を続けて欲しい。</p> <p>・評価に関して、「Bほぼ達成した」とは、目標に対する達成率を何%と設定しているのか。</p> <p>A:B:C:Dの基準の数値化が必要なのでは。</p> <p>・自転車の安全点検に力を入れて欲しい。</p>		
次年度へ向けての課題	<p>・遅刻を繰り返す生徒に対しては、家庭と連携の強化を図り、正しい生活習慣を身につけさせたい。より効果的な解決策を考え、粘り強く指導していきたい。</p> <p>・交通事故に関しては、目標値を上回る6件の発生となり残念な結果となった。いずれも軽微な事故であったが、重大な事故につながる可能性も十分に考えられるので、外部講師による交通安全教室などを積極的に開催し効果的な交通安全指導の在り方を考えて行きたい。</p>		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

(様式5)

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成25年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -3-			
重点項目	進路支援		
重点課題	生徒各人が、学校生活をとおり、よりよい勤労観・職業観を身につけ、主体的に進路を選択し決定できる力をはぐくむ。		
現 状	・昨年度、第2学年で実施したインターンシップの満足度は、生徒アンケート結果より「インターンシップを行った事業所への関心が高まった」90%、「進路について考える参考となった」85%であった。	・民間企業の就職選考試験は9月16日より開始され、昨年度124名の生徒が企業への内定を目指しのぞんだ。 ・昨年度、民間企業への就職希望者の第一次選考における内定率は、約85%であった。	
達成目標	インターンシップの満足度(2学年)	就職希望者第一次選考での内定率(民間)	
	88%以上	90%以上	
方 策	・1学年末にインターンシップ希望先を事前に調査し、新規開拓を行う。 ・事前指導でインターンシップの心構えや取組、実習内容について理解させ、企業について調べさせる。 ・インターンシップを通して、将来希望する職種や企業について、進路選択ができるように指導する。	・各企業が求める人物や適正など、生徒に知らせる。 ・本人の適正、能力について、考えさせる。 ・面接時に本人の魅力や考えを伝えられるように指導する。	
達成度	生徒アンケートによるインターンシップの満足度 ・インターンシップを行った職種(事業所)への関心 大変高まった31.5%+高まった61.0%=92.5% ・進路について考える参考になったか 大いになった47.5%+なった40.8%=88.3%	・一次選考での内定率 受験者146名 内定者136名 内定率93.2%	
具体的な取組状況	・予備調査で希望があった事業所への依頼を行った。 ・介護施設や保育園は希望者のみとし、製造業での体験者を増やした。	・1学期期末後に、外部講師による実践的な面接指導講習会を行った。 ・応募前見学を2社行った。 ・3学年と進路指導部との連絡を密にして、昨年度の不合格理由や企業の要望など情報の共有を行った。	
評 価	A 職種(事業所)への関心が高まった92.5%、参考になった88.3%とともに目標の88%に達した。	A 一次選考での内定率93.2%と目標の90%を十分に越える結果であった。	
学校関係者の意見	・目標項目が2つあるのならそれぞれに、目標設定すべきではないか。インターンシップの満足度は昨年90%だったので、目標値を下げているように誤解される。 ・きめ細かな進路指導がなされているようだ。今後とも進路指導をしっかりとやって欲しい。		
次年度へ向けての課題	・インターンシップの予備調査を1年次より行い、生徒の希望の沿った企業の開拓に努める。 ・体験企業の決定の時期を早める努力をして、生徒には余裕を持って企業調べができるようにし、企業や職種、インターンシップの意義などをしっかりと考えさせてい。	・自分の考えを述べることができる、予想外の質問に対しても臨機応変に返答できるように面接指導を行う。 ・求人票の受付時に、企業が求める人物や適正、能力について把握して、学年と情報を共有する。 ・生徒本人が自己の適性や能力が客観的に把握できるように、適性検査の実施を検討する。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

(様式5)

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成25年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -4-		
重点項目	学校生活	
重点課題	学校行事および部活動の充実	
現 状	・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。各行事の前にはアンケート調査を実施して、代議員による生徒議会も行っているが、事前準備や議会の活性化など十分とはいえない現状にある。 ・部活動等への参加は活発で、年度当初の特別活動加入率(生徒会を含む)は95%(兼部を含む延べ人数)を超えている。しかし、中途退部や自主性が低いなどの悩みを抱えている部も散見される。	
達成目標	主たる活動において満足と回答する生徒の割合	部活動継続率
	85%以上	85%以上
方 策	・各行事ごとに、アンケートを行い、満足度をはかる。また、代議員を通じて、事前アンケートを実施し、生徒の意見集約に努め、活動および生徒議会の活性化を図る。 ・教職員の体制を常に検証して、連携の強化と協力体制の維持に努める。 ・各集会や生徒会便りを通じて、大会日程および成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒のやる気を高める。 ・各部の部員数調査を年度当初と年度末に行い継続率を調べる。そして、各顧問と連携を図りながら、部活動の活性化と充実に努める。	
達成度	満足+ほぼ満足で評価 ・運動会 満足50.0+41.8=91.8% ・尚美展 満足40.2+47.9=88.1% ・球技大会 満足38.2+45.2=83.4%	継続率 1学期→3学期(4/17~1/17) 47名退部、43名入部、全体97.5%
具体的な取組状況	・各行事の内容について、生徒会執行部による事前アンケートを全生徒に実施し、その結果を踏まえて計画を作成する。行事後、取り組みや満足度を全生徒を対象に取り、次年度への反省にする。	・全校で行っている表彰伝達や壮行会。 ・本校生徒の活躍について新聞に掲載された記事の紹介。 ・部活動顧問および職員による生徒指導。
評 価	A ・運動会は、天候にも恵まれ約91%の満足度であった。 ・尚美展は、昨年度より満足度が約8%上昇した。 ・球技大会は昨年より会場が少なくなった関係もあり、4%減少した。	C ・本年度、全体で47名(5.8%)の生徒が退部したが、一方では43名(5.3%)の生徒が新たな部活動に入部した。 ・全体では、97.5%の入部率となった。しかし、特定の部活動で退部者が多く、部活動単位で考えたとき、85%以上は達成できなかった。
学校関係者の意見	・全員参加の部活動でないのに、加入率は高いと思う。途中でやめる子がいるのは残念だ。 ・今後とも生徒の意見を取り入れた学校行事にして欲しい。	
次年度へ向けての課題	・各行事での事前準備を十分に行う。 ・生徒会で各行事の反省点をまとめて次年度に申し送るとともに、改善点を考察する。 ・特活部の教職員間の連絡を密にし、仕事が良いに行えるような協力体制を構築する。	・2年次以降の転部者数の確認とその対応。 ・女子運動部の存続の問題。 ・的確な指導方針に基づく人格の形成。 ・1年生の途中退部者の減少を目指した面接等の充実。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

(様式5)

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成25年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -5-	
重点項目	PTA活動の活性化
重点課題	PTA役員会の活性化
現 状	<ul style="list-style-type: none">・PTA活動を煩雑で面倒なもの捉えている保護者が多く、クラス役員でも全く参加されない方もおられる。・PTA各行事への一般会員の参加が少ない。・生徒を通じてPTA行事の案内をしているが、保護者に渡らない場合がある。
達成目標	役員会の出席率 65%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・役員間の連絡を密にして、各会合への参加を促すとともに、参加しやすく話しやすい持ち方を検討する。・PTA通信やホームページなどを利用して活動を積極的に発信する。・一斉メールを活用した情報の共有を推進する。・役員相互の和気あいあいとした雰囲気醸成に努める。
達成度	・平成25年度 役員会出席率 72.5%(5回の平均) (昨年74.3%、一昨年64.4%)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・PTA会長を中心に役員間の連絡を密にして、各会合への参加を促すとともに、参加しやすく話しやすい持ち方を検討した。・役員会の開催連絡については、一斉メールの利用や担任の協力を得ながら、連絡が確実に保護者に届くように行った。
評 価	A <ul style="list-style-type: none">・役員会5回(正副会長会議、全体役員会)の平均で70%を超えた。特に、執行部の出席率は、79%を越え、クラス運営委員の出席率も65%となり、各役員の協力を得られた1年となった。・各委員会行事においても、積極的に参加していただき、昨年並みの参加者となった。
学校関係者の意見	・学校からの配布物が、生徒から保護者に渡っていないのでは。役員だけでなく、全保護者に確実に連絡を取れる方法を考えるのがよい。一斉メールは良い方法だと思う。
次年度へ向けての課題	・PTA役員の方だけでなく、PTA行事への一般会員の参加が少しでも増えるようにしたい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)